

---

# 新事業創出戦略委員会 第3回資料

---

日本人の生活を豊かにするICTの活用を考える

株式会社三菱総合研究所 山田栄子

## これからの日本社会の構図

---

### ■ 少子高齢社会になるということは……

- ・ 障害者が増える  
認知症、発達障害等、最近になって顕在化してきた障害をあわせると、すでに総人口の約1割の人が障害をもつ(医療技術の進歩も後押し)
- ・ 高齢女性が増える  
社会の組織構造が変わる(井戸端会議組織の繁殖)

### ■ 社会保障の構造改革が必要だが……

- ・ 年金だけで生活できる時代は終わる
- ・ ひとりで家族3人を養える給料は稼げない

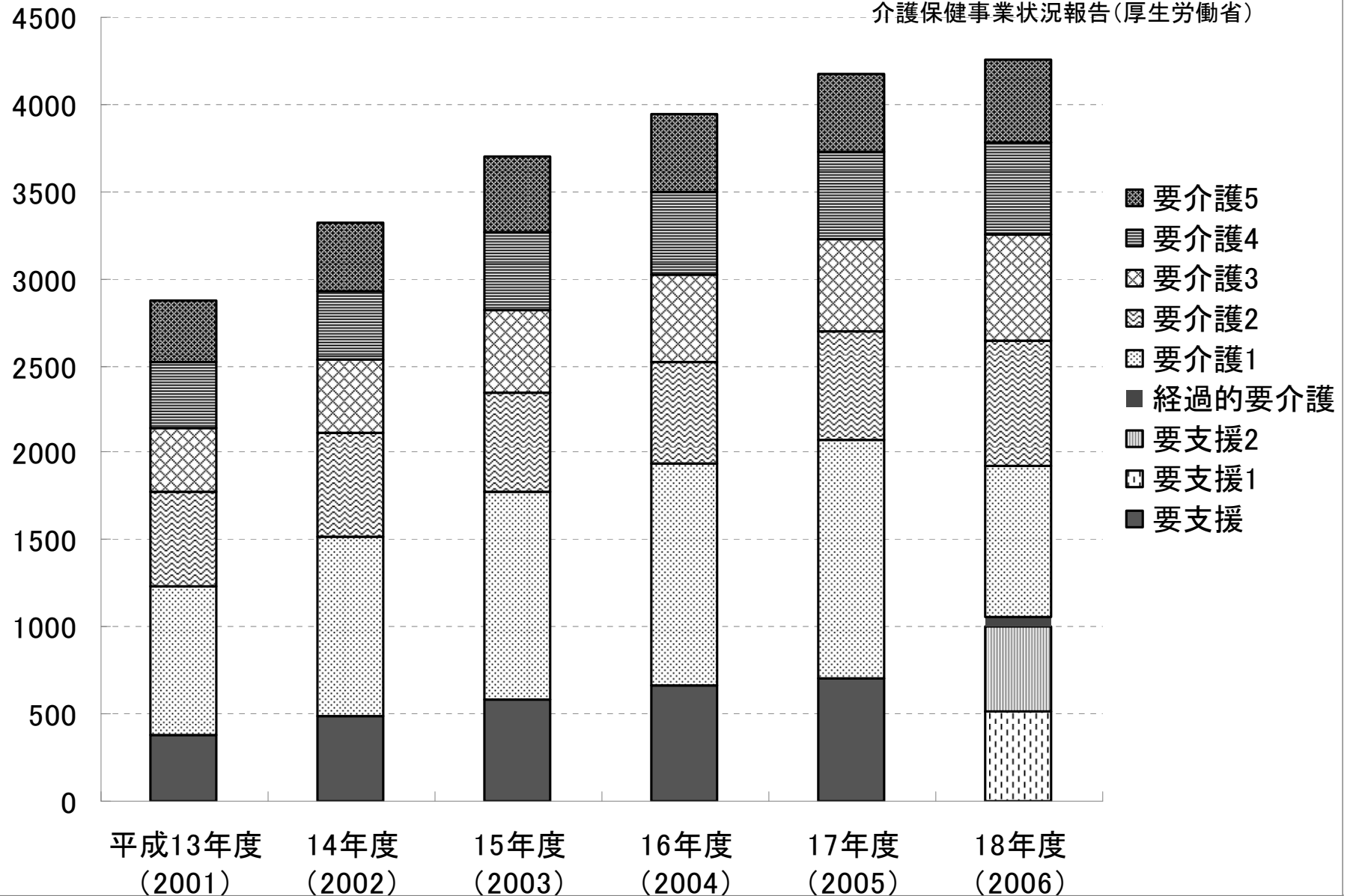
### ■ 生産年齢人口は減ると言われているが……

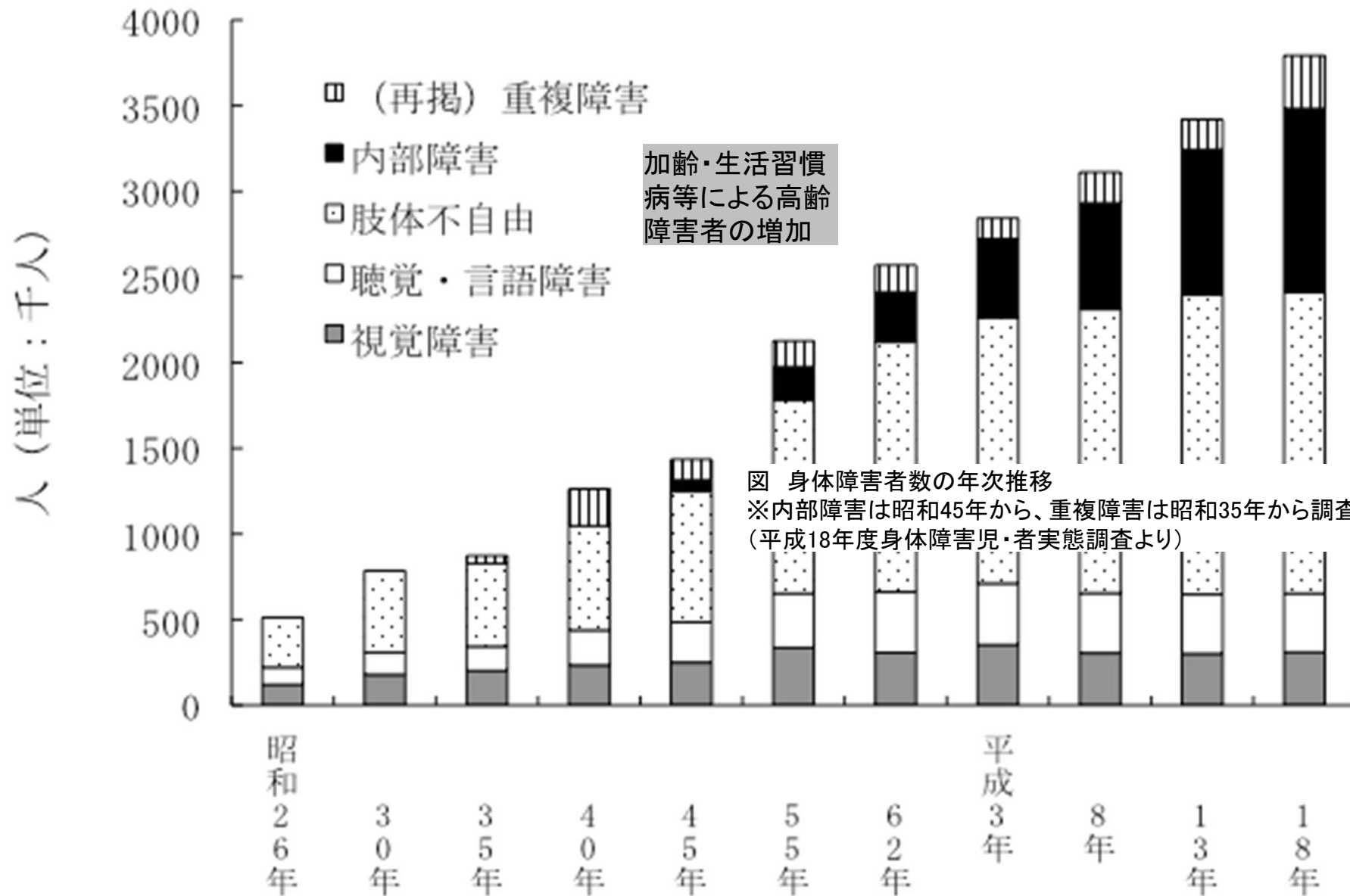
- ・ 15歳～64歳 → 15歳～死ぬまで
- ・ 生産年齢人口の概念や仕事の概念を変える必要がある
- ・ 心身機能やライフステージにあった仕事を開発することが重要  
障害者の就労を考えることは時代の最先端

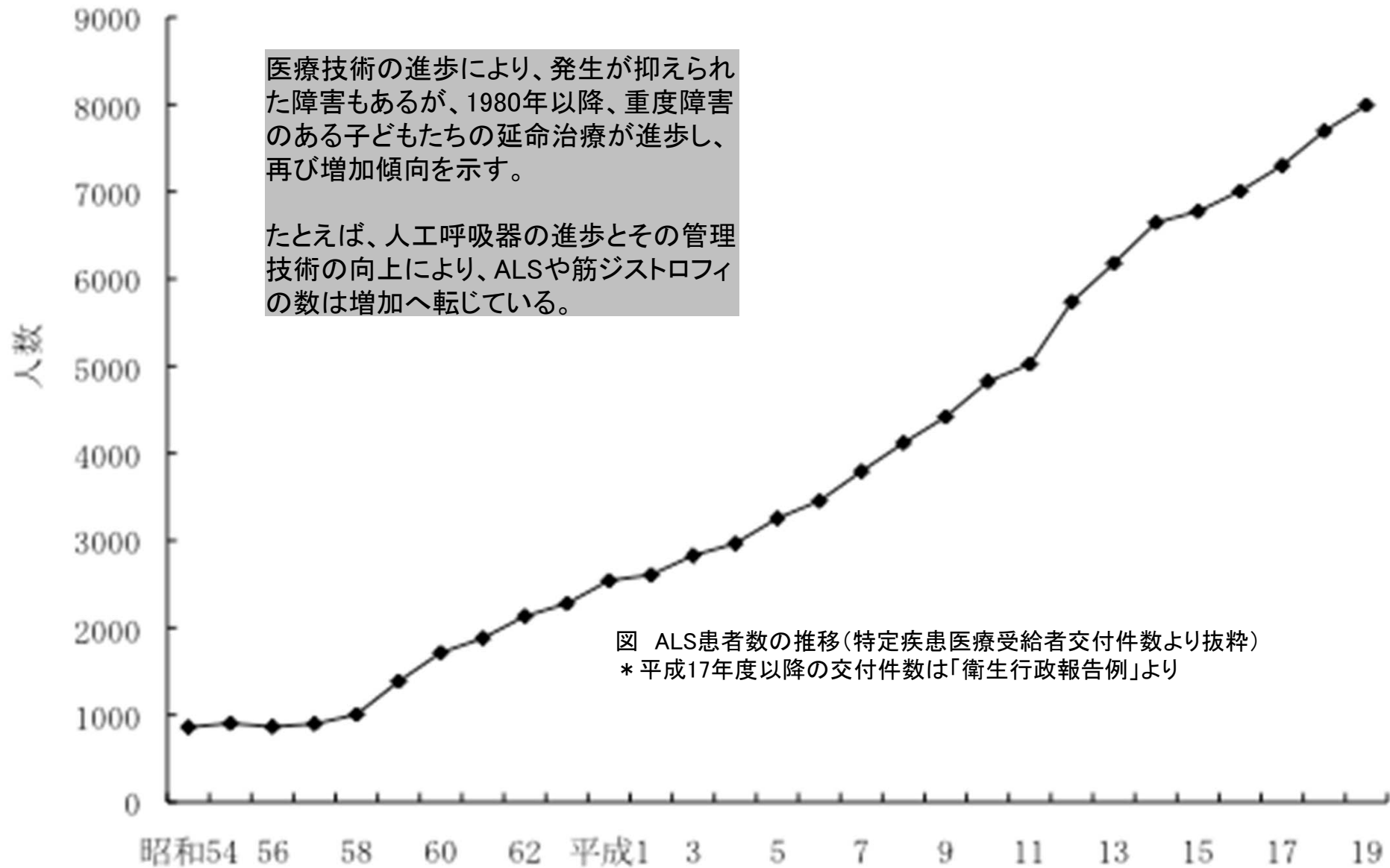
(千人)

## 要介護度別人数の推移

図 要介護度別の推移  
介護保健事業状況報告(厚生労働省)







## テクノロジーの進歩による社会の変化

---

### ■ICTが社会の基盤になるということは……

- ・読み書きそろばんが得意な日本
- ・ICTを文房具と同様にどこまで使いこなせるか

### ■コミュニケーションの方法が大きく変化する……

- ・名もない人の小さなつぶやきでも世界を動かすことができる
- ・障害がコミュニケーションを阻害する要因にはならない
- ・文字だけに頼らないコミュニケーションも重要になる(言葉の障壁を越える)  
絵文字、ピクト、シンボル

### ■技術の進歩を生活にうまく取り入れる知恵が試される……

- ・個人情報を守るのか、活用するのか
- ・情報の活用を中心に据えた新しいサービスの開発(内需を拡大する新事業)
- ・税と社会保障の一本化、公的サービスと民間サービスのシームレスな提供

## 高齢期の生活とテクノロジー

---

### ■ 高齢者もICTを使いこなせる

- ・シニアネット(高齢者が自ら立ち上げたオンラインサークル)の台頭
- ・ICTを活用したシニアベンチャー
- ・ICTを活用して何を実現するかがわかれば、若者よりもヘビーユーザーになる

### ■ 一方で急激なテクノロジーの進歩に対応するのが難しい

- ・今までの生活慣習にないものは想像力が働かない、怖い
- ・技術革新のあり方が問われる(インタフェースの工夫)
- ・生活の中でテクノロジーを使い続けるサービスも重要

### ■ 高齢者に受け入れられるものは、市場を制する

- ・加齢による身体機能の低下を補完するテクノロジー  
記憶のあいまいさをフォロー、文字の大きさを自由に変えられる
- ・高齢者の積極的な社会参加を支援するツールは普及も早い

## 障害者の生活とテクノロジー

---

### ■ 障害者こそICTを使いこなすべき

- ・視覚障害者にとってカメラ付き電話は重要な鏡
- ・ストリートビューで事前に現地の状況をチェックすれば車椅子の外出でも安心
- ・自閉症の人でもメールがあれば、隣同士でも普通に会話ができる
- ・読み書き障害があってもシンボルコミュニケーションで海外の人との交流が可能

### ■ 健在化した障害とICTの活用

- ・平成16年、学習障害、ADHD, アスペルガー症候群など発達障害について認知
- ・発達障害のある人の数は身体障害のある人の数をはるかに凌ぐ
- ・学習・就労分野におけるICTの活用は重要

### ■ ICTリテラシーをもった後天的な障害をもつ人が増加

- ・ICTの活用が心身のリハビリにつながる
- ・選択肢の多様さと無限の可能性を実感



## 生活を豊かにするテクノロジー

### ■高齢期の生活そのものをサポート

○高齢者の増加とともに、高齢者の積極的な社会参加も増加しているが、一方で、高齢者のみ世帯、あるいは一人暮らし高齢者が増えており、高齢者の生活を家族だけでサポートするのが社会的に難しくなっている。

○それを踏まえ、地域の中で効果的な生活支援を実現するためには、個別に提供されている医療・介護・住居・食・仕事・年金等の多様なサービスが連携して実施される必要がある。

○また、産業としてのサービスだけでなく、地域全体で助け合う共助の仕組みも重要である。家族、サービス提供者、協力者、行政等も含めたネットワークの構築とプライバシーに配慮した情報の共有をどう実現するかが課題である。

### ■障害者・要介護・要支援になってもコミュニケーション手段と自己決定手段を確保

○平均寿命は世界でも最高水準となり、高齢者となってからの人生も長い。その長い高齢期をどのように過ごすのかは、個人にとっても社会にとっても極めて大きな課題となっている。人生の最期まで、個人として尊重され、その人らしく暮らしていくことは誰もが望むものである。

○要介護・要支援になっても、自分の人生を自分で決め、また、周囲からも個人として尊重され、尊厳を保持して生活を送ることができる社会を構築していくことが必要である。日常生活における身体的な自立の支援だけでなく、精神的な自立を維持し、高齢者自身が尊厳を保つことができるようなサービスが提供される必要がある。

## 「生活を豊かにするICTの活用」を支える情報プラットフォームの構築

### ■縦割型から横断型へ

- ・税と社会保障の一本化(だけでなく……)
- ・官・民サービスの一体化(新しい社会保障の構造改革)
- ・みんなが情報を持ち寄って、みんなが活用する

### ■新しい事業を自立的に創出

- ・情報取引所事業(中央&地域)→個人情報 の適正取引→情報提供団体の勧誘
- ・情報運用事業者(情報コンシェルジュ)→住民のサービス選択をサポート  
→新しいサービスそのものを創出
- ・新しい人材開発(横断型人材・資格の創出)→経験者が生きる人材の活用

### ■個人のベストな選択を実現

- ・知らないことで損をすることがないように……
- ・コミュニケーションと自己決定のツールを確保することで……
- ・サービスの受益者にも提供者にもなれる……長生き+PPKに効果的

# ■提案 日本版プラットフォームビジネスの形■ 情報取引所構想

